



## 学会参加報告

結核研究所

臨床疫学部・抗酸菌部 鎌田 啓佑

2022年7月1日、2日に旭川で開催された日本結核・非結核性抗酸菌症学会に参加しました。

私は2021年4月に結核研究所に着任しましたが、以降の学会、勉強会は全てオンラインでの参加でしたのでこちらに来てからは初めての対面型の学会でした。幼少期と大学入学以降の大半を北海道で過ごしてきましたので、3年ぶりの現地参加の学会が北海道で行われるということをととても楽しみにしていました。学会時期の東京は歴史的な酷暑の真っ只中であつたためそのような意味でも北海道がより素晴らしい場所のように感じられました。

私自身は、非結核性抗酸菌と免疫不全というシンポジウムで肺外非結核性抗酸菌感染症についてお話しさせていただきました。特にこれまで約90例経験してきた肺外の迅速発育性抗酸菌感染症に焦点を当て、免疫不全と分離される菌種の関係について考察しました。抗酸菌感染症の主役が肺感染症であることに異論を挟む余地は全くありませんが、脇役である肺外感染症も近年明らかに増えていることを実感しており、診断が遅れ適切な治療のタイミングを逃してしまう症例も散見されることから注意が必要です。これまで臓器横断的に評価された研究は比較的小規模なものばかりでしたが、海外では地域によって徐々

に疫学情報が集積されつつありやはり地域差が明確にあります。しかし残念なことに日本は海外と比較しても、疫学情報を収集するためのシステム構築で出遅れてしまっている印象です。ただそんな状況でも、肺外NTM感染症研究に取り組んでいらっしゃる他施設の先生と情報交換したり、その会話中に初めてお会いする先生が声をかけてくださったり、発表をきっかけにその場で輪が広がる感覚と言いますか、現地開催でしか味わうことの出来ない学会の醍醐味を感じることが出来ました。特にアクティビティの高い同年代の先生方との交流や、私の所属医局である北大呼吸器内科の同門の先生方との久々の再会は自分の研究へのモチベーションを非常に強く刺激していただきました。

最後になりますが何より学会に参加して改めて再度実感したのは普段、自分が抗酸菌感染症を学ぶ上でいかに恵まれた環境にいるかということです。日本の抗酸菌感染症の研究、臨床のまさにオピニオンリーダーである先生方が身近にいること、お忙しい中でもいつでも嫌な顔一つせずに私の質問に丁寧に答えてくださることに感謝を忘れないようにしようと思いました。東京の暑さに負けずに頑張ります。🐼